

Cold Spring Harbor Laboratory meeting
2023 Eukaryotic DNA Replication & Genome Maintenance 参加報告

分子細胞工学研究室(鐘巻研究室)

D4 嶋山 雄基

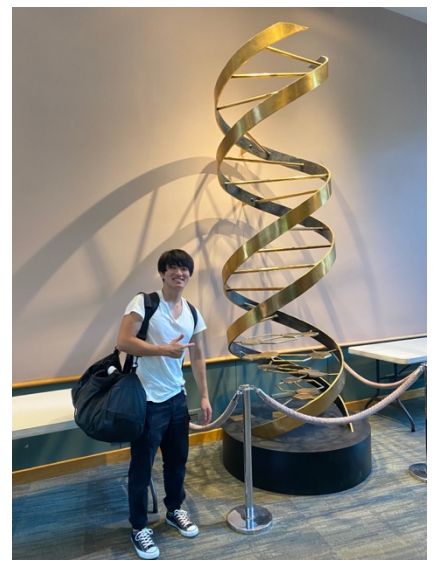
開催期間：2023.09.05-09

開催地：アメリカ合衆国ニューヨーク州 Cold Spring Harbor, Cold Spring Harbor Laboratory

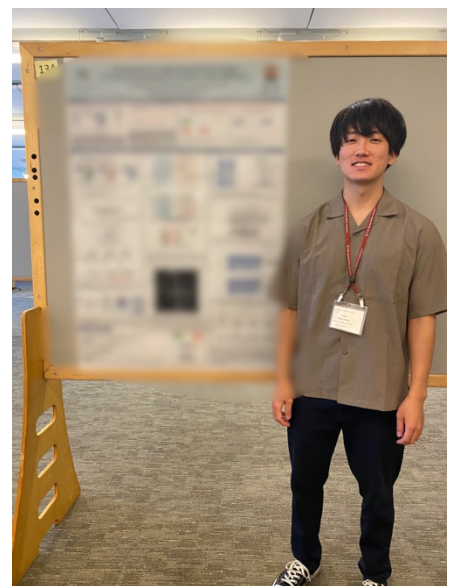
本学会は Cold Spring Harbor 研究所にて 2 年に 1 度開催される歴史ある国際学会であり、特に DNA 複製業界では登竜門的存在である。今回の参加者は例年に比べて多かったようで、世界各国から総勢約 350 名もの複製研究者たちが参加した。研究会開催期間は 5 日間であり、トークセッションやポスターセッションにて、朝から晩まで議論を行った。

トークセッションでは、今現在世界の複製研究者たちが何を重要視しており、どのような目的意識を持ち、どのようにそれにアプローチしようとしているのかというトレンドについて、肌感覚で感じ取ることができた。これにより、我々がこれまで行なってきたこと、そしてそこから予想している新たなコンセプト、それを提唱するための計画が、他の研究者たちからも同様に重要視されている核心的部分を突くものであることを再確認することができたため、今後の研究も自信を持って力強く駆動していきたいと感じた。

自身は学会 2 日目にポスター発表にて、我々の研究室にて開発されたプロテインノックダウン技術である AID 2 法をさらに強力にする戦略と、この改良技術を DNA 複製因子の機能解析に用いることの有用性についての議論を行なった。この発表では 3 時間以上の持ち時間があったが、その間絶えず来訪者があり、惜しみなく議論を楽しむことができた。特に、複製業界の権威であり Cold Spring Harbor Laboratory 所長の Bruce Stillman 教授に研究内容を気に入ってもらい褒めていただけたことはとても嬉しく、このテーマへの自信と今後の研究意欲へとつながった。また、自身の発表以外のポスターセッションでは、個人的に興味を抱くニッチなトピックについて扱うグループがいくつかあったため（ここまでニッチなトピックについて、発表者と一対一で情報交換できるのは本学会だけだと感じた）、最新の貴重な



正面玄関にある DNA 二重螺旋オブジェと。



ポスターセッションにて。

知見を得ることができ、今後の研究に大変参考になった。

基本毎晩 22:30 までトークまたはポスターセッションがあったが、その後は決まって深夜まで、研究所内にあるバーで集まり懇親会が開催された。その場での人脈形成も、今後の研究者としてのキャリアに大いに生きていくと感じた。何より異国の地で、多国籍なバックグラウンドの研究者たちと会話することは自身初の経験だったため、とても貴重な経験となった。

本研究会を総括して感じたことは、私の属する DNA 複製業界では皆が仲良く、お互いをよく知っており、このような研究会の場で集まり情報交換を行い、時にはそのつながりで実際にコラボして協力し合うことで、業界の皆で”DNA 複製”という生物の根底にある問題解決を推し進めているという印象が強く感じられた。このような濃密な風土はなかなか新鮮で、分け目なく他国の研究者たちと議論し協力し合う環境こそが、科学者のあるべき姿なのではないかとも感じた。

本学会参加により多くの情報を得ることができ、自分の今後の課題が整理でき、かついくつかアイデアも浮かんだため、このような機会を頂けたことに感謝し、早速研究に戻ろうと思う。



研究所内にはプライベートビーチがあり、

カブトガニの死骸が落ちていた。

この湾内に多くの個体が生息しているという。



最終日には念願のロブスターと対面。